

1 月 教 育 委 員 会 会 議 会 議 録

日時：令和4年1月25日 午後2時

場所：山口県教育庁教育委員会室

<p>教 育 長</p>	<p>それでは、ただいまより令和4年1月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>なお、頼原委員は所用のため欠席されていますので報告いたします。それでは、本日の署名委員の指名を行います。小崎委員と木阪委員、よろしくお願いします。</p> <p>それでは本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思えます。本日の議題のうち、議案第1号と議案第3号については、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。</p>
<p>全 委 員</p>	<p>承認</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、議案第1号と議案第3号については非公開で審議することといたします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>審議に入る前に新型コロナの関係で、県教委が昨日、県立学校における感染防止対策を強化しましたので、その概要につきまして学校安全・体育課から説明をお願いします。</p>
<p>学校安全・体育課長</p>	<p>新型コロナウイルス感染症への対応について御説明いたします。皆様も御存じの通り、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染力が非常に強く、学校の児童生徒、それから教職員にも感染が広がっている状況です。県教委としましては、できる限り子ども達の学びを止めないということで、現時点では地域一斉の臨時休業等は考えておりません。実は地域の感染レベルというものがありまして、これは7つの指標を総合的に判断して県で決めるものですが、現在、これがレベル2となっております。しかしこの中の指標のうちのひとつである、直近1週間の新規感染者数だけを見ますと、どの地域もレベル3を越えている状況でしたので、この度、レベル2のままではありますが、マニュアルに定められているレベル3相当の対応をするということで、昨日付で学校に通知をしました。レベル3について、少しだけ具体例を上げますと、今までであれば机の間隔が1m程度であったところを、目安としてできるだけ2mくらいとるといったこととか、あるいはマニュアルの中に示されているリスクが高い活動、長時間で大声を出すなどといった活動は行わない、それから給食などについては品数を減らすなど、配膳の工夫を行ってくださいということになっておりますので、これらを学校にお願いしております。これは資料の1枚目にある通知でございます。それと併せて資料の2枚目を御覧いただきたいと思えますが、マニュアル外のところで部活動についても学校にお願いいたしました。平常の活動の留意事項のところですが、この度の感染状況を受けまして、活動場所は原則校内とすることとしておりま</p>

	<p>す。これまでは、まん延防止地区以外の学校については、周辺の学校と練習試合などができておりましたが、今の状況を受けて、県下の全ての県立学校については、部活動は校内に限るとしております。なお、部活動の大会などについては、実施をするかどうか主催者が判断しておりますが、もしそれが開催される場合には、少しでも生徒たちが安心して大会に参加できるように、県外の場合であれば事前にPCR検査を行って陰性であるということを確認した上で大会に参加するとか、県外の修学旅行などについては、もし出ることがあれば戻ってきてからすぐに検査をするなど、教育活動の安心安全を担保することを継続して行っていこうと考えております。</p> <p>以上、お知らせでございます。</p>
教 育 長	<p>ただいま学校安全・体育課からの説明について、意見、質問はありますか。</p> <p>先程、宮村課長から説明がありましたが、県内の感染レベルはレベル2ですが、これを県立学校についてはレベル3相当ということで一番高いレベルのもので対応し、感染防止対策をより徹底していきたいということで、昨日、県立学校等に通知しまして、その御報告でございます。</p>
佐 野 委 員	<p>身近なところでも陽性者の方が発生しているので、こういう対応は必要なことだと思います。ただコロナが始まってもう2年目になって子ども達もストレスを抱えていると思いますので、部活動休止とか、休校とかあった場合は、しっかり対応していただきたいと思います。</p>
学校安全・体育課長	<p>生徒の精神面については、引き続き慎重に生徒の状況を見取りながら、しっかりとケアを行っていけるように、スクールカウンセラー、各関係機関と連携して対応していくこととしております。</p>
教 育 長	<p>各学校は、これから入学試験とか学年末の大切な時期を迎えることになっておりまして、その辺りがきちんとできるかどうか危惧しているところですが、感染防止対策をきちんとした上で、学びを止めないということで対応していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
教 育 長	<p>それでは、議案の審議に入りたいと思います。</p> <p>議案第2号について、社会教育・文化財課から説明をお願いします。</p>
社会教育・文化財課長	<p>議案第2号「山口県文化財保護審議会委員の任命について」御説明いたします。資料は議案資料の2ページをお開きください。</p> <p>当教育委員会の附属機関であります山口県文化財保護審議会委員の任期が、今月1月末をもって満了することから、山口県文化財保護審議会条例第2条第2項の規定により、委員の改選を行うものです。</p> <p>今回の改選にあたりましては、委員数はこれまでどおり16名とし、人選につきましては、審議事項の専門性を考慮し、県内外の文化財に造詣が深い委員を選考しました。その結果、16名のうち、13名を再任とし、3名について新たに就任をお願いしたいと考えております。</p>

<p>教 育 長</p>	<p>新任の3名の方ですが、まず、関西外国語大学英語国際学部教授の佐古和枝氏は、考古学が御専門で、考古資料や史跡を担当いただきますが、特に史跡整備の分野で御意見をいただくこととしております。次に、山口大学人文学部准教授の谷部真吾氏は、民俗学が御専門で、特に日本の祭りについて研究されており、有形民俗文化財及び無形民俗文化財に関する内容について御意見をいただくこととしております。最後に、山口大学大学院創成科学研究科教授の坂口有人氏は、地質学が御専門で、天然記念物のうち特に地質に関する内容について御意見をいただくこととしております。</p> <p>以上、3名の方はそれぞれ専門的な分野で高い識見をお持ちであることから、今後、山口県の文化財の指定等に大いに御貢献いただけるものと考えております。</p> <p>以上、御審議の程よろしくお願いいたします。</p> <p>ただいま社会教育・文化財課から議案第2号について説明がありました。意見、質問はありますか。</p>
<p>教 育 長</p> <p>全 委 員</p>	<p>議案第2号について、承認することとしてよろしいですか。</p> <p>承認</p>
<p>教 育 長</p>	<p>議案第2号を承認いたします。</p> <p>続いて、報告事項に入ります。</p> <p>報告事項1について、学校安全・体育課から説明をお願いします。</p>
<p>学校安全・体育課長</p>	<p>例年、スポーツ庁が実施しております「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の今年度の結果がまとまりましたので、山口県の結果について御説明いたします。</p> <p>資料2ページをお開きください。</p> <p>本調査は、「2 調査の概要」にございますように、全国の小5及び中2の男女を対象に、令和3年4月から7月の間に実施されました。調査項目は、握力や50m走等の実技8種目と、児童生徒の運動習慣等を聞く質問紙調査となっています。なお、中学校の実技については、20mシャトルランか持久走のいずれかを選択して実施することとなっています。なお、昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため調査中止となっております。</p> <p>それでは、本県公立学校の状況を御説明します。</p> <p>まず、体力の状況についてです。6ページに、前回実施の令和元年度と今年度の本県の状況、および今年度の全国の数値を掲載しております。網掛けがある部分は、全国平均を上回った種目、太字で囲まれている部分は、令和元年度の記録を上回った種目になります。それでは、これらのデータをもとに、今回の調査結果について御説明いたします。</p> <p>7ページを御覧ください。まず、(2)体力合計点についてです。8種目の記録をそれぞれ得点化し合計した「体力合計点」は、全国と比較して、今年度、小5男女、中2男女、4つ全ての調査対象学年で下回りました。また、本県今年度の記録を令和元年度の記録と比較すると、中2男子は上回りましたが、小5男女、中2女子は下回りました。なお、体力合計点の全国平均について補足すると、令和元年度に</p>

続き、すべての調査対象学年で前回は下回る結果となっています。下のグラフは、本県の体力合計点の推移ですが、小5男女に関しては、平成20年の調査開始以来、過去最低値を記録しました。

8ページを御覧ください。次は、(3)各種目の主な特徴についてです。まず、調査種目全体の状況についてですが、ページ中央のレーダーチャートは、全国平均を50としたときの各種目の状況になります。例年同様、持久力の指標となる小・中学生の20mシャトルランや中学生の持久走は、全国平均を上回っていますが、柔軟性や筋力の指標となる長座体前屈や握力などについては、全国平均を下回っています。

それでは、次に種目別の結果の推移について、主なものを御説明いたします。9ページの上4つのグラフを御覧ください。持久力の指標である20mシャトルランの推移ですが、これまで同様、すべての調査対象学年で全国平均を上回っています。次に、下4つのグラフは、柔軟性の指標である長座体前屈の推移を表しています。全ての調査対象学年で、全国平均を下回っているものの、中2男女の記録が、調査開始以来、過去最高値を記録しました。また、小5男子、中2男女については、前年度を上回りました。10ページを御覧ください。筋力や調整力の指標となるボール投げについては、全国平均と同様に低下傾向が続いています。また、同様に、上体起こしについてもすべての調査対象学年で、全国平均を下回っている状況です。

11ページを御覧ください。続きまして、体格の状況になります。令和元年度と今年度の本県の状況および今年度の全国の数値を掲載しております。本県児童生徒の身長、体重については、右下のグラフのとおり、中2女子の体重のみ、全国平均を上回りましたが、それ以外については、全て全国平均を下回っています。

次に、12ページを御覧ください。運動習慣等の調査結果について、特徴的なものを御説明いたします。ページ中央のグラフ、体育を除く1週間の総運動時間は、全ての調査対象学年で全国平均を上回りました。しかし、全国同様、全ての調査対象学年で、令和元年度の総時間を下回りました。また、コロナ拡大前と比べた運動やスポーツをする時間について、全ての調査対象学年で「時間が増えた」と「変化はない」を合わせた割合が全国平均を上回りました。また、「時間が減った」と回答した割合は、全ての調査対象学年で全国平均を下回っています。

13ページを御覧ください。運動やスポーツをすることが好きと答えた割合は、全ての調査対象学年で、全国平均を上回りました。下のグラフは、スクリーンタイムが3時間以上であった割合についてです。スクリーンタイムとは、平日、1日当たりのテレビ、スマートフォン等の視聴時間をさします。全ての調査対象学年で、全国平均、本県平均ともに令和元年度を上回り、視聴時間が長くなっています。また、小5男子は、全国平均の割合を上回っています。

14ページからは、今年度の成果と課題、及び今後の取組の方向性をお示ししています。

まず、今年度の成果についてです。柔軟性向上については、平成28年度から全小中学校の重点課題として取り組んでおり、この6年間で、全ての調査対象学年において過去最高値を記録するなど、各校の積極的な取組による一定の成果と考えています。15ページを御覧ください。左側のレーダーチャートは、柔軟性向上に向けた重点的な取

組開始前の平成27年度のもので、右側は、今年度のもので、長座体前屈の大きく凹んだところが、改善されてきており、重点的に取り組んできた成果と考えています。

それでは、14ページにお戻りください。2点目の成果は、例年同様になりますが、持久力の指標となる20mシャトルランについて、全ての調査対象学年で全国平均を上回っていることです。これについては、持久走大会に向けた全校かけ足、なわとび大会等の1校1取組や体育・保健体育授業の充実などによるものと考えています。

さらに、3点目としては、運動習慣について、1週間の総運動時間が全国平均を上回ることや、運動・スポーツへの興味関心の高さなど、望ましい運動習慣が見られることです。これについても、各校の特色ある取組に加えて、学校・家庭・地域が一体となった運動習慣改善の取組によるものと考えています。

16ページを御覧ください。課題としては、体力の総合的な指標である体力合計点が全ての調査対象学年で全国平均を下回っていること。また、長座体前屈の結果においては、一定の成果はみられたものの、依然として全国平均に届いていないこと。さらに、ボール投げ、握力についても、全国同様、本県でも下降傾向にあることから、バランスのとれた体力向上に向けた取組の充実を一層図っていく必要があることなどがあげられます。加えて、全国と同様に、運動時間の減少、スクリーンタイムの増加について、課題ととらえています。これらの運動習慣や生活習慣については、コロナの影響を受け、さらに拍車がかかったとも考えられます。

こうしたことから、今後の取組の方向性としては、例年と同様に、スポーツ医・科学の専門家等による「体力アップチャレンジ協議会」を1月31日に開催することとしており、その中で、今年度の体力調査等の結果を踏まえ、体力の向上や運動習慣の定着に向けた取組の検証及びその改善を図ることとしています。加えて、実技講習会等の開催による指導方法の工夫・改善、スポーツに関するトピック等を盛り込んだ家庭向け啓発資料の作成・配付、運動習慣の改善・定着に向けた運動教室や研修会等の取組を、積極的に進めてまいりたいと考えています。

県教委といたしましては、まずは、コロナの感染拡大防止に努めつつ、子どもの体力向上を図るために、「運動やスポーツをすることが好きな子ども」の育成をめざした体育授業の工夫・改善等の取組や運動習慣の定着・改善に向けた取組について、今後も市町教委や関係機関、団体等と連携しながら推進してまいります。

教 育 長

ただいま学校安全・体育課から報告事項1について説明がありましたが、意見、質問はありますか。

佐 野 委 員

コロナの関係で、学校で体を動かす機会が減ったということがあると思いますが、全国平均を見た時に、山口県くらいの都市部と、もっと都会である都市部を比較したときに、どう違うのか気になります。割と都市部の方々は公共の交通機関を使って個々で移動するので、通学とかで荷物を持って歩きますし、生活の中で自然に体を動かしていると思います。しかし、山口県の子どもや我々もそうなんです、全体的に体を動かさない。意図してスポーツをしないと身体を動かさない場合が多いんじゃないかと思っています。以前は私、山口県に体を動か

す環境があれば、自然に体を動かすのではないかと考えてたのですが、逆に山口県のようなところだからこそ、意図して体を動かすということを習慣付けないと、身体を動かさないんじゃないかと感じております。ここの調査は意図して体を動かしたり、スポーツをしたりという数値が出ていると思うのですが、生活全般でどれくらい体を動かしたかを考えると、もしかしたら、山口県の子どもはあまり体を動かしていないんじゃないかという気がしています。であれば、意図してでも体を動かすという習慣づけをしていかないと、将来的に体格面や健康面などに影響がでないかなと思います。それと個別のデータで目に留まったのが、ソフトボール投げの小5男子の成績です。右肩下がりに落ちているのですけれども、昔は野球をする子がたくさんいて、ボールを投げることを覚えて楽しんでいたんじゃないかと思います。しかし最近では、サッカーとか他のところに移行して、そんなに野球をしなければ、速いボールを投げれるとか、そういうのをかっこいいと思う子ども達が減ってきたというのが、この右肩下がりになってる背景なんじゃないかと感じています。そういう社会的に好きなこととか趣味になることがあれば、子ども達は自主的にいろんなことを体験して成績が上がるのではないかと思います。これが逆の方向に進んでいるのではないかと思います。たぶん好きだから手首を使ったスナップとかそういうのも自然に練習して覚えるし、体を上手に動かす体験が得られるんだと思うのですが、できれば山口県の子どもたちが遊びでもいいので、体を動かすという習慣を義務教育等学校で流行らせていただけたらと思います。

学校安全・体育課長

始めにお話がありました都市部とそうでないところの比較による調査については、国の方でも県の方でも行ってはおりませんので、それについてデータに基づいた具体的なお応えはできませんけれども、御指摘のような傾向はあるかもしれません。却って都市部でないところの方が意外と運動する機会が少ないということもあるかもしれません。もうひとつ子どもの生活に着目したら、また大人と違う面があるかもしれませんので、子どもの生活自体がどうなのか着目しながら、御指摘いただいた視点については今後参考として検討させていただけたらと思っています。それからソフトボール投げについては、これも我々の推測ではありますが、御指摘の通り、野球などをやっていた子ども達が、時代の移り変わりの中で少なくなってきた結果なのかと捉えています。人気のスポーツや社会情勢などによって、そういうところも変わってきているのかなと思います。

佐野委員

基本多くの方がやろうと思ったらできる動きなので、取組のところにある体育授業マイスターの活用とか、すごい人を見てこんなことができるんだって思ってもらったり、やってみたら思った以上に記録が出て楽しいなって思ってもらったり、そんな風に自らやりたいという雰囲気を作っていただければと思います。それと生活の中で体を動かす時間を増やすというのは難しいと思いますが、県内で同じような学校や、環境が違う学校などで、どのような状況なのか比較することで、山口県の子ども達にあった改善の方法が見えないかなと感じますので、そういった分析をよろしくお願いいたします。

<p>学校安全・体育課長</p>	<p>御指摘いただいた点のひとつで、山口県の子どもの特徴として、運動やスポーツが好きだと回答する子どもが、全国平均より多いというところがございますので、それを大切に育てていけたらと思っています。ただ、実際には8種目の中で、一般的な運動をすることで全ての指標が伸びていくかという、例えば柔軟性などについてはあまり相関がないと言われている部分がありますので、その辺もまた区別して、注意深く結果を見ながら、改善に努めていきたいと思っています。</p>
<p>小 崎 委 員</p>	<p>成果のところ、長座体前屈とか成果が出ていたりするんですけども、例えば具体的にどういう取り組みをされたのかを教えてくださいたいのと、もうひとつ下の1校1取組とあるんですけども、これももう少し具体的にどういう取組をされたのか、分かれば教えてくださいたいです。</p>
<p>学校安全・体育課長</p>	<p>長座体前屈は分類をすると柔軟性に区分されるものですが、これにつきましては、先ほどお伝えしました通り、1校1取組としてやっております。具体的には授業以外で子ども達が定期的に、継続的に運動を行う場や時間を確保する取組を小学校で行っていただいています。例えば、授業と授業の間の短い休み時間に走る業間走や、1日1万歩運動、朝マラソンといったものがあります。月毎に学校で種目を変えて設定をしたり、学校での課題として捉えているものに対応させたりしているような状況です。</p>
<p>小 崎 委 員</p>	<p>すごい成果が出たというような学校とかはありますか。</p>
<p>学校安全・体育課長</p>	<p>そこまで具体的に突出したものは聞いておりません。運動が好きで、たくさん運動する子が結構いるんですが、なかなかそれが柔軟性には直結しないところがあるので、柔軟性に特化した取組を継続してやっていく必要があると思っています。</p>
<p>木 阪 委 員</p>	<p>比較しても仕方がないかもしれませんが、体力合計点が出ているということは、上位の都道府県についても分かると思うのですが、もし差し支えなければ、どちらの都道府県が上位に入っているか教えてくださいいただけますか。</p>
<p>学校安全・体育課長</p>	<p>他県の状況については公表しておりません。</p>
<p>和 泉 委 員</p>	<p>地域性もあって体格が全国平均を下回っているとかは仕方ないと思うのですが、一番大事なのは運動が好きだということです。山口県では、この運動が好きというお子さんが多いということで、良いことだと思います。しかもこれを見ると、体育の時間以外の、1週間の総運動時間が全国平均よりも上っているということは、スポ少や地域の人たちの御活躍もあるのかなと思います。そういったところを大切にしながら、山口県らしい体力の向上に努めていただけたらと思います。それこそ競技をどうこう言うより、生涯にわたる豊かなスポーツライフの構築という理念の下、豊かな体力の向上の為に運動好きな子どもを育てるという方向でお願いできればと思います。</p>

学校安全・体育課長	<p>御指摘いただきましたように、我々は個別の種目の結果を気にしながら取組をしていきますが、当然、この結果には影響を与えるものとして、体格の要素などがあります。総合的にはなってくるのですが、県の独立検査では、高校3年生になると男女共全国平均を上回っているという状況もあります。個別毎で気にしながらも、広い範囲と長いスパンで子どもの成長を見取っていきたいと考えています。</p>
小 崎 委 員	<p>以前にも出たと思うのですが、今、子どもが自由に公園でボール投げやサッカーなどができないところが多いじゃないですか。それが運動から離れたり、体育が苦手になったりする原因になっていることもあるのかなと思います。最近、ボルダリングとかスケートボードがすごく流行っていますが、そういうものができる場所が山口県には少ないと思います。そういうのをどんどん作っていただいて、どこに行ったらそれができるのか、まとめて子ども達が見ることができる、分かりやすい何かがあればいいなと思いました。そうすれば子どもたちにも興味を持ってもらえるんじゃないかと思いました。</p>
学校安全・体育課長	<p>教育委員会の方で直接管理運営している体育施設はないんですけれども、県の中にスポーツ推進課というところがあります。これは一般の県民を対象にスポーツの振興を図っています。そちらとも連携しながら、そういった情報があれば学校にも提供していきたいと思えます。</p>
佐 野 委 員	<p>今の小崎委員の話は、是非やっていただきたいと思います。思い切って体を動かそうと思っていても、今は動かせる場所が本当に少ないんですよ。何かやってみたいと思ったときに、直ぐにできる場所を分かるようにするというのは大切なことだと思います。ボールを投げるにしても投げる場所がないですし、スケートボードもできないですし、できないことばかりなので、できる場所を是非作っていただきたいと思います。</p>
教 育 長	<p>それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。 続いて、報告事項2について、学校安全・体育課から説明をお願いします。</p>
学校安全・体育課長	<p>資料17ページを御覧ください。 スクールソーシャルワーカーの採用選考試験の実施については、昨年10月の教育委員会会議において御報告したところですが、本日はその結果について御報告いたします。 「1 選考日程」にありますとおり、受験者の募集を11月上旬から下旬にかけて行ったところ、県内から2名の応募がありました。11月下旬に書類選考による第1次選考試験を実施した結果、2名を第1次選考試験の合格者としました。 その2名の合格者について、昨年12月19日に面接試験による第2次選考試験を実施し、最終合格者1名を決定し、受験者に通知したところです。 今後、採用手続きを進め、令和4年4月1日付けで採用する予定です。</p>

<p>教 育 長</p>	<p>以上、御報告いたします。</p> <p>ただいま学校安全・体育課から報告事項2について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>
<p>佐 野 委 員</p>	<p>スクールソーシャルワーカーさん、これから先も専門家の必要性が高まってくると思いますので、関心が高い方々も以前よりも増えると思います。ただ、今回は応募者が2名ということで、いろんな事情があるのだらうと思うのですけれども、この先更に必要とされる仕事だと思いますので、より多くの応募者が出てくるように取り組んでいただいて、そういう御仕事をしようという方の層を厚くしていただきたいと感じております。業務内容の中にも、スクールソーシャルワーカーの人材の育成と書いてあるので、今回の方を中心にこの分野の裾野を広げていただいて、次に募集する時には、たくさん応募してもらえるようになっていたらと感じております。</p>
<p>学校安全・体育課長</p>	<p>この度、初めて常勤として採用することとなりますので、今、委員さんから御指摘ありました通り、まずは人材育成等についてしっかりと力を発揮していただいて、またそういう状況になりましたら、たくさん応募していただけるように、日々の取組をしっかりと行っていきたいと思っております。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。</p> <p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
<p>教育政策課長</p>	<p>次回の教育委員会会議は、令和4年2月24日（木）午後2時を予定しております。よろしく申し上げます。</p>